大規模災害時の簡易対応マニュアル

福生第三中学校

震度５弱以上の地震発生　　校内放送（副校長）　副校長不在時は校長、生活主任

放送指示　「現在大きな地震がおきています。落ち着いて、避難してください。避難場所は校庭です。校庭にクラスごとに整列してください（朝礼体型）」

１　授業時（学級指導）　１　身の安全の確保　　授業担当者
２　揺れが収まったら、避難指示を出す
第一避難所　校庭（学級ごとに整列）
点呼確認（担任　担任不在の場合は副担）
担任から副校長へ（直接）

２　放課後（部活指導中）１　身の安全の確保　　指導者（顧問、委員会担当など）
２　揺れが収まったら、避難指示を出す
第一避難所　校庭（**学級ごとに**整列）
点呼確認（担任　担任不在の場合は副担）
現在集まっている生徒を確認する
担任から副校長へ（直接）

３　非常持ち出し（生徒名簿）　副校長　　都事務担当者　　生活指導主任
※持ち出しできない可能性がある。
ハンドマイク　生活指導部（安全係）
救急箱　　養護教諭

４　下校の方法　　確認が取れたものから、下校する
（地区別班でなく、方面別にまとまって帰る）
※原則は、保護者が引き取りに来るまでは学校で待機する。
自宅が倒壊したり、自宅に帰ることができない状況の場合は、学校待機。
下校の区分については下の欄を参照。

５　保護者への連絡方法 ①使用可能ならば、緊急配信メール　学校ホームページで知らせる。
②電話連絡は行わない。（回線をおけておくため）
③メール配信使用不可の場合は、連絡しない。

６　教職員の対応　　地方公務員として、学校での待機
避難所の確保　備蓄倉庫からの用具など管理

７　学校が避難所となった場合
本部　校長室　保健室は開けておく
体育館に避難所を確保（住民用）
不足の場合は各教室に設置
調理室は開けておく

８　備蓄倉庫の内容
毛布、災害用電話、救急箱、非常用食品、その他

緊急対策本部組織　9名で構成

対策本部長	校長	・・・・・全体指揮・公共機関との連絡
対策室長	副校長・・・・・・連絡調整・教職員への指示／連絡	
対策委員	生活主任・教務主任・進路主任・学年主任・保健主任	

支援活動員　各教員　　生徒の安全確保及び指導・避難者の対応

【連絡体制】　班については、詳細は対策本部長が任命する。

対策本部長　→　市教委

対策室長

【仮の担当】

救護・医療班	教務部
避難誘導班	進路指導部
物資担当班	生活指導部

震度５弱以上の場合　下校の方法　　原則は、保護者が引き取りに来るまでは学校待機。

【下校の方法】　対策本部組織で次の①②③を決定する。

緊急度①　全員下校　　ある程度まとまって速やかに下校する。

緊急度②　下校　待機　　下校する生徒（保護者が福生市内、近隣に勤務）
待機する生徒（保護者が帰宅難民になるおそれ）

緊急度③　全員待機　　生徒全員学校に待機（保護者が引き取りに来るまで）

各教室に毛布、寝具類を用意。避難食。
（市教委と相談し、用意しておく）

生　　徒・・・・・・・基本は校舎（教室）　男女に分かれて（学年職員で対応）

避難してきた住民・・・・・・基本的に体育館

本部（対策室）・・・・・・・校長室・応接室

連絡室・・・・・・・・・・・職員室

救護室・・・・・・・・・・・保健室及びランチルーム

食材確保（調理室）

法的根拠

時間外勤務の条件　　非常変災時に校長は、時間外勤務を命じることができる。
（いわゆる歯止め４項目）

教職員は家族の無事を確認できたら、勤務地での災害にあたる業務を担当することになる。

基本的には、自治体の防災対策室が避難住民の担当となるが、学校が避難場所に指定されている以上、何らかの形で学校職員が災害時に業務を担当しなくてはならなくなる。
いつまでか、どこまでか等の詳細については、そのときの状況の判断によるところが大きい。

避難所の設置及び運営業務は、本来市区町村長の責務によって行われるべきものですが、震災時には、災害対策本部の設置や担当職員の避難所への派遣までに時間的空白があり、地震発生直後に学校へ駆けつけた管理職や職員が、混乱回避、秩序維持のための避難者への対応に臨まざるをえません。

情報

①地震及び余震の情報
②近隣地域の被害状況
③災害対策本部、教育委員会、警察、消防からの情報
④教職員及び生徒の安否情報
⑤被災者の安否情報

①公的情報の連絡
②食料・水、物資などの到達、手配、配分など
③連絡

①食料、生活物資の校内運搬と保管
②トイレ
③ゴミ処理
④避難所の設営、確保
⑤放送・掲示
⑥苦情処理

想定されること　　～危機管理の面から～

電話・携帯・配信メール・パソコンなどは使用できない。
水道は断水
電気は停電・ガス使用できない　　夏場は暑くて熱中症　　冬場は寒い状況
電車・バス・交通手段はマヒ
コンビニには食料が無くなる
避難者が多く押しかけてくる
自宅には帰ることができない
ケガ、病気などの対応に追われる

確保しておくべきもの
〇テント　〇毛布類　〇寝具類　〇食料品　〇水　〇発電機
〇マイク　〇救急用品　〇簡易トイレ　〇下着類　〇着替え、ジャージ類
〇ライト・ろうそく　〇ラジオ